特集
Special Issue

協同労働・よい仕事研究交流全国集会 2024　全体会報告

よい仕事とは何かーあきらめ、おまかせをこえて、だれもが当事者に

今年も「協同労働・よい仕事研究交流全国集会」が日本労働者協同組合連合会主催で３月２日（全体会）、３日（分散会）に開催された。前年のテーマ「だれもが主人公ーあきらめ、おまかせの社会をこえて」を引き継ぎつつ、あらためて「よい仕事」とは何かということを現場の実践に引きつけて問い合う集会となった。労協法施行から１年以上が経過し、新規に設立された労働者協同組合からの報告もあり、既存の労働者協同組合組織にとっても自らの原点を振り返る貴重な機会となった。本号では、初日（全体会）の全プログラムの報告を掲載する。

記念企画として、沖縄の（株）いきがいクリエーションの親泊朝光さんが「働きやすさと働きがいの両立を目指して」というテーマで講演された。労働者協同組合としての実践報告ではないが、よい仕事の追求と協同労働の職場づくりという２つのテーマを追求するワーカーズコープの問題意識と重なるテーマである。「働きがい」を追求するだけでは組織は維持できないこと、同時に「働きやすさ」の追求が不可欠であることを、失敗談も交えてわかりやすくお話いただいた。

パネルディスカッションでは、３つのセッションで６本の実践報告とファシリテーターの進行で意見交換が行われた。セッション１では、新規に設立された「労働者協同組合あるく」と、センター事業団「ポラーノの椅子」から、設立の思いやなぜ協同労働を選択したのかということについて報告があり、経営の安定化など課題についても率直に語られた。セッション２では、センター事業団・浦安地域福祉事業所の若手組合員が主体となったプロポーザルと、センター事業団・ふじみ野そらまめ地域福祉事業所の社会連帯活動についての報告があり、組合員が主体となって事業所の運営を担う取り組みが紹介された。セッション３では、センター事業団・山口宇部出張所による緑化事業拡大の取り組みと、新規に設立された「労働者協同組合キフクト」からは造園業をベースにした地域での仕事おこしの挑戦が語られ、協同労働と自然との結びつきが展望できる報告であった。

労協法施行により多様な人たちが労協を設立する一方で、先頭に立って協同労働運動を推進してきたセンター事業団は今、昨年発生した不適正報告事案をめぐり組織改革のただ中にある。「協同労働・よい仕事」の探究は、終わりなき研究テーマであると思う。

協同労働 よい仕事

研究交流全国集会 2024

令和4年10月1日
労働者協同組合法
が施行されました。

協同労働という新しい働き方

「労働者協同組合法」が社会に浸透していく。
協同労働が手渡され、地域の文化となっていく。
願いを胸に持続可能な地域づくりへ向かう。
そんな時代に「よい仕事」とは何かを問う。

オンライン開催　お申込みは▶

3月/2 sat 土【全体会】12:30▸17:00 ～ 3 sun 日【分散会】10:00▸15:00

よい仕事とは何か

～あきらめ、おまかせをこえて、だれもが当事者に

2022年10月の労働者協同組合法の施行から1年以上が経過し、全国で約70の労働者協同組合及び連合会が誕生しました。出資・意見反映・労働を基本原理とする労働者協同組合の働き方や目的に共感し、楽しく取り組んでいることが特徴です。日本社会で地域経済の崩壊や過疎過密、格差や貧困、社会的排除・孤立という問題が広がっている中で、市民一人ひとりが“あきらめやお任せ”を超えて、“当事者”として創り出すことができる可能性を指し示しているのではないでしょうか。長年にわたり協同労働の現場で探求してきた「よい仕事」の実践を研究者の皆さんと一緒に研究・評価し、地域に発信し広げる機会にしていきます。

1日目　全体会

- **開会挨拶**　12：30～
- **記念講演**　12：45～

親泊 朝光さん（株式会社いきがいクリエーション　取締役）

高校卒業後、やりたい事が見つからず職を転々とする日々を過ごす。
それから、様々な人との出会いによって看護師となる。
大学病院のNICU勤務を経て訪問看護の世界へ。現在は、医療・介護・福祉の会社を経営し、働きやすさ、働きがいの追求をしている。

- **パネルディスカッション**　14：00～　パネリスト　協同労働の実践事業所
- **閉会挨拶**　16：45～

2日目　分散会

- **20の分散会**　10：00～

全国の協同労働の実践をもとに、少人数に分かれて「よい仕事」を深め、研究・交流をします。

主催：日本労働者協同組合連合会　　E-mail：rngukism@roukyou.gr.jp
〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-44-3　池袋ISPタマビル7階　TEL：03-6907-8040　FAX：03-6907-8041

「協同労働・よい仕事研究交流全国集会2024」開催にあたって

1 労働者協同組合法の施行から１年、協同労働の多様な広がりとその可能性

2022年10月の労働者協同組合法の施行から１年以上が経過し、全国で約70の労働者協同組合及び連合会が誕生しました。新たに設立された労働者協同組合は、（１）不登校やひきこもりなど生きづらさを抱える子どもや若者たちの居場所や学び（フリースクール）や就労の場づくり、（２）地域や自治会を基礎に地域課題の解決や農林業の６次産業化、（３）持続可能な環境保全の取り組み、（４）ミドルシニア世代の健康や生きがい・仕事おこし（シニアワーカーズコープ）、（４）子育てや高齢者ケアの専門職が集い当事者主体・地域づくりに向かうコミュニティケア、など多岐にわたる分野で、若者から高齢者まで、専業から副業・兼業まで多様な働き方で、「協同労働」に取り組んでいます。

設立した人々からは、「共通な想いを持つ仲間が集い、話し合いによるフラットな関係で働きたい」「一人ひとりが尊重され、それぞれの能力や状況を活かし、自分らしく主体的に働きたい」「利益追求ではない、地域から必要とされる仕事を、まっとうな仕事として成り立たせたい」など期待の言葉が聞かれ、出資・意見反映・労働を基本原理とする労働者協同組合の働き方や目的に共感し、楽しく取り組んでいることが特徴です。

このことは、私たちが暮らしている日本社会で地域経済の崩壊や過疎過密、格差や貧困、社会的排除・孤立という問題が広がっている中で、その現実をリアルに直視しながらも、労働者協同組合・協同労働がそれらとは異なる価値や役割を持った新たな社会を、市民一人ひとりが “あきらめやお任せ”を超えて、“当事者”として創り出すことができる可能性を指し示しているのではないかと考えます。

2 よい仕事と協同労働を結びつけることの意味は

日本労働者協同組合連合会では、「よい仕事」を1979年の設立当初より自らの原則に掲げ、「労働者が企業の主人公になれるのか」「雇われ者意識の克服」と提起してきました。病院清掃現場における針刺し事故を契機として「捨てるごみの向こうに人がいる」キャンペーンを実施し、清掃労働者自らが労働環境の改善を図るなどの取り組みを通して「よい仕事とは何か」と問いました。また子育ちや介護など地域福祉事業の現場では、働く仲間どうし、利

用者や地域の人との協同づくりを通して「ケアにおけるよい仕事とは何か」をケアワーカー集会の開催などにより社会に発信してきました。

これらに取り組む中で、出資・経営・労働の三位一体の働き方を「協同労働」と位置づけ、利用者・地域・働く者の３つの協同を基本に置いて「よい仕事」とは何かについて探究してきました。

加盟組織の各現場・事業所では、毎月の報告に「よい仕事」を記録し、分野ごとや分野を超えて横断的に「よい仕事」の実践を学び合ってきました。そこでは、就労困難な仲間が現場の協同の関係性のなかで生き生きと働く姿、「よい仕事」に取り組む中で一人ひとりの組合員・利用者・地域が変化・成長する姿など、多様な「よい仕事」が生まれています。

前回の研究交流集会で、北海道大学名誉教授の宮﨑隆志先生は、「自分たちのよい仕事を表明するだけにとどまらず、なぜそれができるのか、そこに協同労働の働き方があることを意味づけ、自分の言葉で語ることを通して、地域に手渡すことができるのではないか」と、よい仕事の今の焦点となる課題についてコメントいただいています。

その一方で、「この仕事がしたくて入ってきたのに、協同労働の活動を（その上にさらに）やらなくてはいけないのか」「自分に任された仕事をよい仕事として行っているが、それだけではいけないのか」と、よい仕事と協同労働を別物と捉え、協同労働を負担と感じ、協同労働の働き方を仲間や地域に伝えることを苦しく感じる仲間の存在もあります。誇りを持ったよい仕事は、仲間との協同の関係があってこそ実現されていくものだと思いますが、「協同労働が腑に落ちない」「意味づけることがむずかしい」との声も聞かれます。

3　今回の協同労働・よい集会研究交流集会で一緒に考え、深め合いたいこと

労働者協同組合法が施行されて以降、その意義を発信することでその可能性を受けとめていただき、協同労働に対する関心や可能性を実感する人々が着実に広がっています。この協同労働という働き方の基礎となる「よい仕事」とは何か、なぜ私たちは仕事を「よい」ものへと高め、それを協同の関係を通して広げてきたのか、その意味や可能性を仲間どうしで深め、考え合う取り組みを全国の仲間と交流してきました。

今集会では、その原点にある「よい仕事」とは何かを、一人ひとりの組合員が考え、深めていく機会としていきたいと思います。そして、それを現場・事業所で取り組むことができているのか、またはできていないのか。その可能性や課題は何か、もしそれができていないとしたらどのようにすればできるようになっていけるのかを一緒に考えていく契機にしていきたいと思います。また「協同労働」と「よい仕事」は、どう捉えられているのか、どのような関係にあるのか、全国の仲間の「よい仕事」の実践を研究者の皆さんと一緒に研究し合い、評価し合い、地域に発信し広げていく機会にしていければと思います。